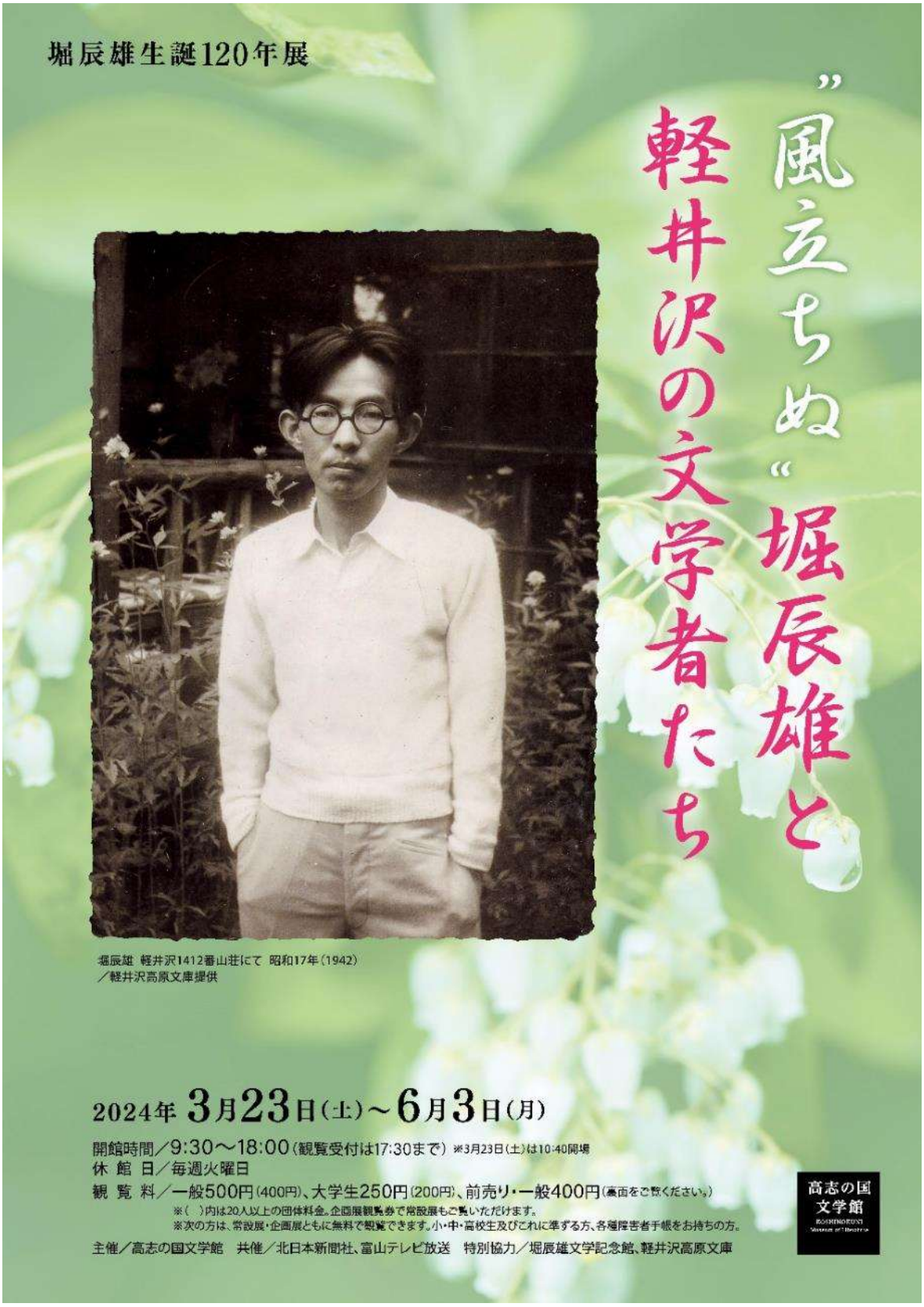
報道関係各位
企画展のご案内



展覧会チラシ

広報に関するお問い合わせ：高志の国文学館　事業課　谷口・福澤・綿引
〒930-0095　富山県富山市舟橋南町 2-22　TEL 076-431-5492 / FAX 076-431-5490

Summary

堀辰雄は一高生だった大正 12 年（1923）の夏、室生犀星に伴われて初めて軽井沢を訪れ、その独特の雰囲気に魅了されます。その後も師である芥川龍之介や片山廣子、萩原朔太郎などの文学者と交流し、療養を兼ねてたびたび滞在。やがてこの地は、彼の文学にとって欠かせない場となっていきます。

堀は日本の私小説に飽き足らず、プルーストやリルケ、モーリヤックなど西洋文学の手法を採り入れたロマン（西洋の本格的な長編小説）を追求して、愛と青春、生と死などのテーマに挑み、『美しい村』『風立ちぬ』『菜穂子』などの作品を発表しました。これらは今なお若い世代の読者を魅了し続けています。また、日本の古典文学にも目を向け、『かげろふの日記』などの作品も著しました。

本展では、堀と軽井沢との関わりをたどりつつ、清新で詩心にあふれる堀の作風確立の過程と作品世界を、原稿、書簡、蔵書などの貴重な資料で紹介します。あわせて、片山廣子による芥川龍之介宛書簡（当館蔵）を特別公開し、堀と交流の深かった軽井沢ゆかりの文学者たちを紹介します。

Profile

堀 辰雄（1904～1953）

明治 37 年（1904）12 月 28 日、東京市麹町区平河町生まれ。父は東京地方裁判所勤務の堀濱之介、母は西村志氣（しげ）。後に彫金師の上條松吉に嫁した母とともに東京向島で育つ。東京府立第三中学校（現両国高校）を経て、大正 10 年（1921）に第一高等学校理科乙類に入学。在学中、生涯の親友となる神西清を知り、文学に親しむ。室生犀星と芥川龍之介の知遇を得、軽井沢で片山廣子を知るが、関東大震災で母を失い、その後の療養生活へとつながる肺結核を発病。大正 14 年（1925）、東京帝国大学国文科に入学し、同人誌「山繭」などに参加、中野重治らと「驢馬」を創刊して詩・小説・エッセイを発表。20 世紀フランス文学に親しみ、翻刻・紹介に努めた。

芥川の死後、「不器用な天使」（昭和 4）、「聖家族」（昭和 5）で文壇に注目される。以降、プルーストやリルケ、モーリヤック、日本の古典文学などに学びつつ、「美しい村」（昭和 8～9）、「風立ちぬ」（昭和 11～13）、「かげろふの日記」（昭和 12）、「姨捨」（昭和 15）、「菜穂子」（昭和 16）などの作品を発表。昭和 8 年（1933）には季刊誌「四季」を創刊。翌年には三好達治・丸山薫らと月刊誌として復刊させ、詩壇に大きな影響を与えるとともに、立原道造、中村真一郎、福永武彦などの若手詩人・作家育成の場ともなった。戦後は病床での生活が続き、作品発表は限られていた。昭和 28 年（1953）5 月 28 日、48 歳で死去。

Outline

展覧会名	「堀辰雄生誕 120 年展　〝風立ちぬ〟堀辰雄と軽井沢の文学者たち」
会　　期	2024 年（令和 6 年）3 月 23 日（土）～6 月 3 日（月）
会　　場	高志の国文学館　〒930-0095　富山県富山市舟橋南町 2-22
開館時間	9：30～18：00（観覧受付は 17：30 まで）　※3 月 23 日は 10:40 開場
休 館 日	毎週火曜日
観 覧 料	一般 500 円（400 円）、大学生 250 円（200 円）、前売り・一般 400 円 ※（　）内は 20 人以上の団体料金。企画展観覧券で常設展もご覧いただけます。 ※小・中・高校生及びこれに準ずる方、各種障害者手帳をお持ちの方は無料。
主　　催	高志の国文学館
共　　催	北日本新聞社、富山テレビ放送
特別協力	堀辰雄文学記念館、軽井沢高原文庫
展覧会担当	高志の国文学館　事業課　係長・学芸員　綿引香織（わたひきかおり）

Theme

第１章　作家 堀辰雄の出発　―「聖家族」発表まで

一高在籍中に室生犀星・芥川龍之介という２人の師に出会う幸運に恵まれた堀が、文学修行や人生経験を経て、出世作「聖家族」を完成させるまでの軌跡を紹介します。その後の作品に大きな影響を与えた大正 12～14 年の軽井沢体験や、「聖家族」のモデルとなった片山廣子一家との交流を示す資料も展示。

第２章　作家である「私」の物語　―「美しい村」と「風立ちぬ」

堀の実生活を反映した代表作「美しい村」と「風立ちぬ」の作品世界について、執筆にあたって影響を受けたプルーストなどの作品やその研究ノート、作品構想を語るノート、関連資料や写真などにより紹介します。あわせて、この時期に創刊された詩誌「四季」について紹介します。

第３章　〈ロマン〉追求の軌跡　―「菜穂子」の系譜

私小説とは異なる本格的な小説を書こうとする堀の試みは、「聖家族」から「物語の女」（昭和 9）を経て、「菜穂子」（昭和 16）へと結実します。作品構想や人物像に影響を与えたモーリヤックやリルケに関する研究ノートなどを展示するほか、堀の言葉や創作ノートなどにより「菜穂子」の創作過程について紹介します。

第４章　日本の古典と西洋文学との融合　―「かげろふの日記」から「大和路・信濃路」まで

堀は日本の古典文学にも親しみ、「かげろふの日記」、「姨捨」、「曠野」などを書きました。書込みのある蔵書や構想ノート、原稿などにより、作品の創作過程を紹介します。また、折口信夫に傾倒して古代への関心を深めたことを伝える研究ノート、蔵書、書簡のほか、構想段階に終わった古代小説に関する創作ノートなども展示。あわせて、晩年の文学活動や交遊関係についても紹介します。

Topics

１　貴重な自筆資料でたどる堀文学の軌跡

堀辰雄の自筆資料や関連資料の多くを所蔵する堀辰雄文学記念館、軽井沢ゆかりの文学者たちの資料を幅広く所蔵する軽井沢高原文庫の全面的なご協力のもと、原稿やノート、メモ、書簡、書込みのある蔵書などの貴重な自筆資料により、西洋文学の手法を取り入れて〈ロマン〉を追求した堀辰雄文学の軌跡をたどります。

２　書簡や愛用品、写真などからうかがえる交遊関係と人柄

堀のもとには、芥川龍之介や室生犀星のほか、萩原朔太郎、片山廣子、横光利一、折口信夫、立原道造などさまざまな文学者からの書簡が残されています。また堀自身の書簡は、作品の背景をうかがわせる貴重なものです。堀の生活を彩った愛用品や写真などとあわせて、その人柄や交遊関係、作品の背景などについてご紹介します。

３　片山廣子による芥川龍之介宛書簡を特別公開

大正 13 年の軽井沢での滞在をきっかけに、片山廣子と芥川龍之介との間で交わされた書簡を特別展示します。芥川は堀の師であり、堀は大正 13 年、14 年夏の軽井沢で片山廣子に出会いました。堀の「聖家族」などには、芥川、片山廣子と娘の總子、堀のイメージが投影されていると見られています。

４　装幀の美しさと稀覯本の魅力を紹介

堀は造本への関心が高く、自身の著書や主宰誌の装幀にも心を配り、友人の著書の装幀を手

がけることもありました。それらは発行部数も少なく、稀覯本となっているものも少なくありません。堀の美意識を感じさせる造本へのこだわりにもご注目ください。

５　堀文学と軽井沢の魅力をわかりやすく紹介する導入展示

導入展示では、美しい写真や地図、作品の抜粋などにより、堀辰雄にゆかりが深い軽井沢や追分の地について紹介し、朗読音声で堀作品の魅力をお楽しみいただきます。また、「はじめての堀辰雄・７つの質問箱」を設置し、堀辰雄についてわかりやすく紹介します。

６　多彩なイベントを開催

軽井沢高原文庫館長・大藤敏行氏の講演、『虚構の生―堀辰雄の作品世界』などの著書がある研究者・飯島洋氏の講演、県立富山中部高等学校文芸部の生徒による堀辰雄作品の紹介など、多彩なイベントを開催します。

Events

（１）講演

［日時］3 月 23 日（土）　14:00～15:30
［演題］堀辰雄と軽井沢―軽井沢を愛した文学者たち―
［講師］大藤敏行氏（軽井沢高原文庫館長）
［会場］当館 研修室 101
◎申込必要　◎定員 100 名　◎参加無料

（２）講演

［日時］4 月 14 日（日）　14:00～15:30
［演題］堀辰雄とその時代―戦争、軽井沢、堀田善衛―
［講師］飯島洋氏（金沢大学人間社会研究域准教授）
［会場］当館 研修室 101
◎申込必要　◎定員 100 名　◎参加無料

（３）読書会「高校生と堀辰雄作品を読んでみる」

文芸部員おすすめの堀辰雄作品を紹介し、堀作品についてフリートーク。
［日時］4 月 27 日（土）　14:00～15:30
［出演］県立富山中部高等学校 文芸部のみなさん
［会場］当館 研修室 101
◎申込必要　◎定員 100 名　◎参加無料

（４）担当学芸員によるギャラリートーク（展示解説）

［日時］4 月 13 日(土)、5 月 4 日(土・祝)、5 月 25 日(土)　各回 14:00～（30 分程度）
［会場］当館 企画展示室
◎申込必要　◎要観覧券

■申込方法
電話・ＦＡＸにてイベント名（複数可）と氏名、電話番号を高志の国文学館までお知らせください。
※定員に達し次第、募集を終了します。
※ＦＡＸでのお申込で、定員に達してご参加いただけない場合のみ当館からご連絡いたします。

Highlight

■主な展示資料

第１章　　作家 堀辰雄の出発　―「聖家族」発表まで

写真「旧制第一高等学校入学時の辰雄」(A)、堀辰雄宛室生犀星書簡 (A)、堀辰雄宛芥川龍之介書簡 (A)、「大正 14 年の読書メモ」(A)、卒論「芥川龍之介論」(A)、「不器用な天使」原稿 (B)、『聖家族』（江川書房）(C)、『文學　創刊号』(A)、芥川龍之介宛片山廣子書簡 (C)、片山總子スケッチ「堀辰雄の顔」(A)

第２章　　作家である「私」の物語　―「美しい村」と「風立ちぬ」

「プルウストⅠ」ノオト (A)、「美しい村」ノオト (A)、堀辰雄宛萩原朔太郎書簡 (A)、堀辰雄宛横光利一書簡 (A)、矢野綾子油彩画 (A)、『風立ちぬ』（野田書房）(C)、写真「焼失前の油屋にて」(A)、「軽井沢北部地図」(A)、『四季　創刊号』(C)、堀辰雄宛立原道造書簡 (A)、立原道造パステル画 (B)

第３章　　〈ロマン〉追求の軌跡　―「菜穂子」の系譜

『短篇集　物語の女』（山本書店）(C)、茅野蕭々訳『リルケ詩集』(A)、「リルケⅨ」ノオト (A)、「菜穂子創作ノオト」(A)、「菜穂子」覚書 (A)、『文学界　昭和 16 年 9 月号』(C)、愛用品（万年筆、ドイツ製の色鉛筆）(A)、愛用品（蓄音機、籐のテーブル・椅子セット）(B)

第４章　　日本の古典と西洋文学との融合　―「かげろふの日記」から「大和路・信濃路」まで

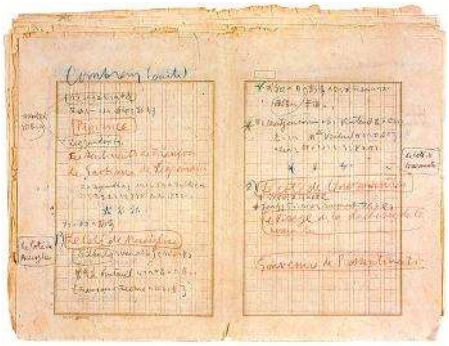
「かげろふの日記」原稿 (A)、堀辰雄宛折口信夫書簡 (A)、「蜻蛉日記・更科日記」ノオト (A)、「姨捨記」原稿 (A)、堀多恵宛堀辰雄書簡 (A)、折口信夫『古代研究』(A)、「大和路（一）」ノオト (A)、「堀辰雄日記」(A)、「出帆」ノオト (A)、堀辰雄編『野村英夫詩集』(B)、堀辰雄宛神西清書簡 (A)、『四季　再刊第１号』(C)、堀辰雄宛中野重治書簡 (A)、写真「病床で多恵夫人と」(A)、神西清編『堀辰雄集』(B)

など　約　２５０　点

※堀辰雄文学記念館蔵＝A、軽井沢高原文庫蔵＝B、高志の国文学館蔵＝C

Images

1　「不器用な天使」原稿
（軽井沢高原文庫蔵）



2　「プルウストⅠ」ノオト
（堀辰雄文学記念館蔵）

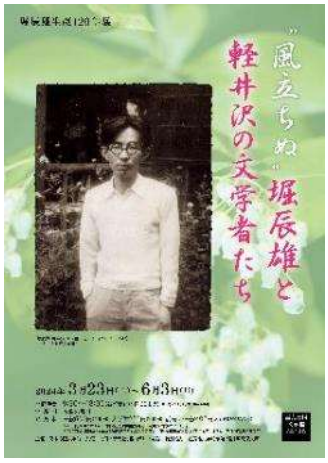
3　「美しい村　ノオト」
（堀辰雄文学記念館蔵）

4　『風立ちぬ』　野田書房、
1938 年刊（当館蔵）

5 愛用の蓄音機
（軽井沢高原文庫蔵）

6 愛用の　ドイツ製色鉛筆
（堀辰雄文学記念館蔵）

7 堀辰雄　軽井沢 1412 番山荘にて　昭和
17 年（1942）　軽井沢高原文庫提供



8 展覧会チラシ

「堀辰雄生誕 120 年展
″風立ちぬ″ 堀辰雄と軽井沢の文学者たち」
広報用画像貸出申請書

高志の国文学館事業課　広報担当　行
FAX　076-431-5490
E-mail　akoshinokuni@pref.toyama.lg.jp

展覧会広報用の画像を貸出しております。ご希望の際は、下記の貸出条件をご確認のうえ、本書に必要事項をご記入いただき、FAX または E-mail にてお申込ください。E-mail の添付にて JPEG データで画像をお送りいたします。

【広報用画像貸出条件】
◎画像は展覧会紹介の目的のみにてご使用ください。
◎画像のトリミングや、画像に文字を重ねるレイアウトはお控えください。
◎画像データは、ご使用後かならず破棄してください。
◎画像データを第三者に渡すことを禁じます。
◎インターネット上へ掲載する際には、画像をコピーできないよう処置してください。

御社名　：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

御担当者名　：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

E-mail アドレス　：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

電話　：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　FAX　：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

掲載誌名・番組名・Web サイト名　：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

発行・放映・掲載予定日　：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

申込画像（ご希望の画像をチェックしてください。）

□画像 1　「不器用な天使」原稿（軽井沢高原文庫蔵）
□画像 2　「プルウストⅠ」ノオト（堀辰雄文学記念館蔵）
□画像 3　「美しい村　ノオト」（堀辰雄文学記念館蔵）
□画像 4　『風立ちぬ』　野田書房、1938 年刊（当館蔵）
□画像 5　愛用の蓄音機（軽井沢高原文庫蔵）
□画像 6　愛用の　ドイツ製色鉛筆（堀辰雄文学記念館蔵）
□画像 7　堀辰雄　軽井沢 1412 番山荘にて　昭和 17 年（1942）　軽井沢高原文庫提供
□画像 8　展覧会チラシ